

人と人 つながりの物語

コープデリグループの組合員数は約520万人。組合員の皆さんの数だけ、物語がある。その物語を毎月一つお届けしていきます。描いているのは皆さんのくらしとコープデリの接点。あなたの物語はどんな物語ですか。



illustration: Maiko Dake

コープに入職して10年目の谷野^{たにの}祥^{あき}さんは、6歳と3歳・2人の息子の母親であり、2021年5月に育児休職から復帰、コープデリ入間センター（埼玉県）で宅配の配達の仕事をしている。留守のお宅には静かに・こまやかにを心がけ、お会いできる場合は組合員の皆さんの声色・顔色をしっかり見て、特にコロナ禍はマスクで互いの表情が見えづらい中で、きちんと自分の心が伝わる配達を意識している。「この方はいつも通り元気かな？」って気にかけています。配達するとき少しお話をしていると、だんだん顔色が明るくなる方もいるんです。そういうときは「もううれしい」と谷野さん。あとは、できるだけ毎週「担当者ニュース」を書くこと。おすすめの商品やお知らせを掲載することもあるが、できるだけ自分の体験として伝えることを大切にしている。1月には家の近くの店舗で、息子たちとフードドライブに食品を寄付したことを記事にした。

「違う部署で別の仕事をしている篠原さんという方が『コープデリの抽選で当たったカップ麺をフードドライブに寄付して、恩送り』をしてきました！」って書いていたのを目にしたんです。「恩送り」って良い言葉だなんて思った。私の家にもちょうど年末年始にいただいたコーヒーやおそばなどがあつたので、コープのお店に持って行き、設置されたボックスに息子たちが寄付するところを写真に撮って、ニュースの記事にしました」

「フードドライブのことは過去のニュースでお知らせしたことはありました。実際に自分がやってみると、この食べ物が必要な誰かのもとに届いて、家庭がばつと明るくなる」といいな。って、よりリアルに思いを馳せられた」

谷野さんは自分が書いたニュースが、誰かに伝わるようにと願いを込めた。一生懸命に書いた。「コープで働き始めたのは、たまたま、ときどき自分がコープのお店へ行っていたなじみから。気軽な動機でした。でも実際に自分が職員になって働いてみたら、たくさん素敵な取り組みや活動をしていて、コープのことがとても好きになったんです。そのさまざまな活動を、私はこれからも伝えしながら仕事をしていきたい。」

上の息子は家でニュースを書くのを手伝おうとしてくれたり、昼間幼稚園の前をトラックで運転して通ると「今日ママ通ったよね」って知ってるんです。まだまだどんな内容はたぶんわかっていないけれど、「僕もコープさんで仕事したい」なんて言ってくれているんですよ。

過去の物語も
こちらから読めます



あなたのエピソードを
お寄せください。

コープ職員との心に残る出来事を随時募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便（〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コープデリ連合会 コミュニケーション推進部宛）か、左記のWeb応募フォームよりお送りください。